



大友 章裕 京都大学大学院理学研究科化学専攻 助教
(前 生命錯体分子科学研究領域 助教)

私の転出雑感

おおとも・あきひろ / 2019年9月 大阪大学大学院理学研究科化学専攻博士後期課程修了。博士（理学）。その後、日本学術振興会特別研究員PDを経て、2020年5月より分子科学研究所助教。2024年10月より現職。

京都大学に移ってから1か月が経ちました。たくさんの学生でにぎわうキャンパスも良いものですが、閑静で研究に集中できた山手キャンパスが時折懐かしく感じます。在職当時は静かな環境よりにぎやかな環境の方がいいなと思っていましたが、隣の芝生は青く見える症候群ですね。余計なことは考えず、今在る環境に感謝をしながら、粛々と研究に精進していく所存です。

分子研・飯野Gにはポスドク・助教として合わせて4年9か月お世話になりました。着任した時期は感染症騒動に見舞われた時期でもありました。多くの研究機関では研究活動に制限が課されていたようですが、飯野Gでは幸いにも研究を継続することができ、むしろ集中して取り組める環境を整備し

ていただいたことにとても感謝しております。

飯野さんには、毎朝のミーティング、毎週のラボセミナーを通じて、実験デザインや研究のアウトプットを徹底的に鍛えていただきました。飯野さんのもとには国内外の第一線の研究者が頻繁に訪れます。この刺激的な環境で、自然と研究者コミュニティを広めることができ、数々の共同研究にも携わる機会を得ることができました。このネットワークは転出後も生きており、順調なスタートを切ることができています。

飯野Gの超優秀な技術支援員の方々、秘書の方々、そして同僚に恵まれて飯野Gでの研究も軌道に乗り、岡崎3機関+ExCELLSの研究者交流会にも携わる中で、多忙ながらも充実した日々

を過ごすことができました。しかしながら、環境に慣れ、居心地が良くなることは私のような落ち着きのない性分には次の場所へと移る合図となります。分子研助教という立場にも、次のステップを目指す使命が込められています。そのような中、ちょうど良いタイミングで現職の公募があり、次の環境へと移ることを決めました。新天地の研究室はまだ立ち上がってから日が浅く、環境整備から始めなければなりません。新しい場所での挑戦にまた違った充実感を覚えています。

分子研での貴重な経験を糧に、これからも研究者として邁進していきたいと思えます。末筆ながら、飯野さんをはじめ、お世話になった皆様に心より御礼申し上げます。



真ん中の椅子に座っている人物が筆者